

神戸女学院大学 心理学部 心理学科 精神保健福祉士養成課程 ニュースレター

第1号



特例子会社にて 見学実習をさせていただきました



3年生の授業(ソーシャルワーク演習)において、ヤンマービオシス株式会社(特例子会社)へ見学に行かせていただきました。

健康・サポート室の精神保健福祉士 川島様よりお話を伺い、企業で働く精神保健福祉士の役割や業務内容に加え、精神保健福祉士の価値観や視点を養うことの大切さを教えていただきました。社内見学では、働かれている方々から業務内容をご説明いただき、仕事をする上での工夫や、やりがいなどをお聞かせいただきました。

OGの佐藤様からは、後輩である学生に向けて、仕事においても女性の様々なライフステージにおいても周りに頼りながら自分らしい人生を送って欲しいと心温まるメッセージをいただきました。

参加した3年生の感想

・今回の見学実習は養成課程に入って初めての実習経験で、一般企業で働く精神保健福祉士という全く想像もしなかった内容だったので事前学習から疑問に思うことが多くありましたが実際に現場に行きお話を聞くことで、今まで不明確だった精神保健福祉士の仕事像や働く環境についてハッキリしたような気がしました。

・今回の見学を通して特に印象に残っていることは、「HOWではなくWHYで考える」という姿勢です。どうしても普段の生活では「どうすればいいか」といった解決策ばかりに目が向いてしまい、「なぜそうなるのか」という視点を持つことは少なかったと気づきました。しかし、専門職を目指す上ではこの「なぜ」を考える姿勢が非常に重要だと感じました。

・みなさんが仕事に集中して責任を持って仕事に取り組まれている姿が印象的でした。ジョブコーチや精神保健福祉士の方々も社員の方々を支援を必要としている障害者としてでなく一人の社員として対等に接しているように感じられました。職場全体に支援する側される側の上下関係でなく、共に働く人としての関係性が築かれていることが素敵だなと思いました。

・ソーシャルワーカーは達成感を得ようとしてはいけないというお話が印象に残っています。人を支援する仕事なのに達成感を感じてはいけないことに驚いたからです。お話を聞いて、ソーシャルワーカーが主体になって当事者を引っ張っていくのではなく、当事者が自分で前に進むための支援をすることが前提であると感じました。

・実際に働いている方のお話だけでなく、オフィスの構造や日々の仕事の工夫について知ることができたのも大きな収穫でした。オフィス内はどこにいても他の人の様子が見えるような、広く、開放的なつくりになっていて、助けを求めやすく、また助けを必要としている人にも気づきやすいよう工夫されていました。こういった「空間のつくり」にも工夫があることに驚きました。

ありがとう
ございました



ヤンマーシンビオシス株式会社の皆様へ感謝申し上げます。

神戸女学院大学 心理学部 心理学科 精神保健福祉士養成課程 ニュースレター

第2号

実習医療機関より 就職ガイダンスを開催いただきました



4回生のソーシャルワーク実習でお世話になっているハートランドしぎさん(奈良県)の職員の方より、精神保健福祉士の実務や具体的な就職に関するお話を伺いました。当日は精神保健福祉士養成課程の4回生12名、3回生4名が参加しました。

精神保健福祉士が所属している部署を中心にご紹介いただきました。発達障害や認知症などの専門外来や精神科救急病棟などがあり幅広い年齢層や症状の方を対象にしておられることや対象者ごとの支援の様子をお伺いしました。精神保健福祉士の価値や視点にもとづいた具体的な関わりについてもお話があり、実習や就職に向けて精神保健福祉士の専門性を再認識できる貴重な機会となりました。

参加した4年生の感想

・今回の就職ガイダンスを通して、病院での就職にも関心を持つきっかけとなりました。私はもともと病院で働くことはあまり考えていなかったのですが、実際にお話を聞く中で、病院は新卒で資格を取得したばかりの段階でも、多くのことを学びながら成長できる環境が整っていると感じました。ハートランドしぎさんでは、子どもから高齢者まで幅広い年齢層を対象に支援を行っており、さまざまケースに関わる中で得られる知識や経験は、将来的に他の分野での支援にも十分活かせる点が魅力に感じました。また、病院という場では多職種との連携が日常的に行われており、異なる専門性や視点に触れながら支援に関わることができる点にも、大きな学びがあったと感じました。

・特に印象に残っている話は、こどものこころ診療センターの説明の部分で、「家族の思いが強すぎることもある」と話された場面です。こどもに関わる支援では、本人の気持ちを最優先にすることが理想である一方で、実際にはそれがとても難しい場面があるのだと感じました。親がこどもを心配し気にかけることは当然のことであり、こどもが通院や入院をしていれば、その思いが強くなってしまふことは自然だと思います。そのような状況の中で、支援者は親の思いを否定することなく受け止めながらも、こども自身の気持ちに丁寧に目を向ける必要があると感じました。特にこどもは、自分の気持ちを言葉にしづらいことや親の期待から不安を受け取りすぎてしまうことがあると思います。その中で、支援者は表に出てこない本人の気持ちにどう寄り添うか、また家族の思いとどう調整していくかが求められているのだと感じました。



ありがとう
ございました

・精神保健福祉士は支援を行う立場であり、多くの方の悩みやご相談に応じます。そのため、共感や受容の姿勢だけでなく、感情に流されない意志と安定したメンタルも必要になると考えております。そこで、質疑応答では、専門職として安定した心を保つためのメンタルケアや意識されていることについて質問させていただきました。そして、「働く中で自身の壁にぶつかった際、同じ部門だけでなく、各部門の職種の方に相談できる環境があることが大切である」とお答えいただきました。年齢や経験に関わらず、部門を超えて相談できるような環境づくりが大切になると感じました。自身にはない意見やアドバイスをもらうことにより、解決策や心を少し軽くさせることができると感じました。

遠方にも関わらず、朝早くからご来校いただきました澤井様、高幣様、田中様に感謝申し上げます。

神戸女学院大学 心理学部 心理学科 精神保健福祉士養成課程 ニュースレター

第3号



心理学部OG勉強会を開催しました テーマ「事例検討」



心理学部 精神保健福祉士養成課程ではこれまで25期、190名近くの卒業生を送り出しています。

7月19日、OGを対象にした勉強会を学内で開催し、社会福祉法人天心会 アプレンド(生活訓練・就労定着)にご勤務されている23期生の池田夏芽様をお招きし、事例検討会を行いました。

ご勤務先の事業所の特徴や具体的な就労支援の流れやプログラムなどについてご紹介いただいた後、事例をご報告いただきました。その後の事例検討では、経験年数やご所属されている機関が異なる参加者同士で、それぞれのご経験の中で培われてこられた多様な視点やご意見を積極的に交換されていました。



参加された方の感想

- ・働く場所や内容は違っても、考え方や視点を出し合い、自分では思いつかなかった意見を知ることができとても勉強になりました。参加されていた方々のそれぞれの特徴ある意見を聞くことができておもしろかったです。
- ・様々な職域の先輩・後輩の意見を聞くことができた。
- ・ざっくばらんにお話ができてよかった。
- ・色んな視点での意見交換ができて、とても充実した検討会でした。ありがとうございました。
- ・普段、話ができない方々と話すことが出来て視野が広がりました。
- ・色んな機関で働いている方と話ができ、色んな視点を考えることができた。



～参加者の内訳～

7期生～24期生
(2006年度卒～2023年度卒)

…ご勤務先…
精神科病院、大学病院、
地域生活支援センター、
特例子会社、療育センターなど

講師の池田様、ご参加くださったみなさまに感謝申し上げます。



会場をうつして行われた懇親会でも、お仕事の近況をお話しされたり、お互いにお仕事のアドバイスをされるなど、OG同士の繋がりの中で心温まる交流が図られていました。

神戸女学院大学 心理学部 心理学科 精神保健福祉士養成課程 ニュースレター

第4号

榎坂病院にて見学実習を させていただきました



3回生の授業(ソーシャルワーク実習指導Ⅰ)において、大阪府吹田市にある榎坂病院にて見学実習をさせていただきました。ケースワーカーの服部先生にご対応いただき、病棟内やデイケアを見学させていただきました。病院とデイケアで働く精神保健福祉士の業務内容や精神保健福祉士として働く上で大切にされていることなどを細やかに教えていただきました。



参加した3回生の感想



「実習を行う上でどのような距離感でいけばよいか分からない」という質問に対して、服部さんが「話を聞いてますよという姿勢を大切にしてほしい」とおっしゃっていたことが特に印象に残りました。患者様がお話されていることが聞き取れないことがあっても分かたふりをするのは良くないという言葉に強く共感しました。

これまで授業で、多職種連携は支援を行う上で欠かせない、大切なものと何度も聞いていたため、非常に重く、厳格なイメージがありました。しかし、病棟の見学中に、看護師の方が自然に「〇〇の件で...」と話されている様子を見て、連携とは、会議といった場だけではなく、日常の小さな声かけや情報共有の積み重ねでもあるのだと知りました。

・待合室や廊下、エレベーターなど周囲に人がいる場面では患者さんの情報を話さないといった配慮や、カルテや記録を鍵付きの場所に保管するなど、プライバシー保護が徹底されている様子が見られました。授業では「クライアントの秘密保持が重要である」と学んでいましたが、実際の現場でどのように管理されているのかを確認でき、とても参考になりました。

・服部さんへの質問を通して、「まずは一緒にやってみる」ことの大切さを学びました。頭の中のイメージと実際の行動が異なることはよくあるため、一緒に活動する中で、患者さんが難しさを感じる部分や大切にしているこだわりが具体的に見えてきます。これにより、支援の方向性を本人に合ったものへと調整しやすくなると感じました。

・利用者の方も想像以上に支援者の態度を気にかけておられるというお話を伺い、腕組みといった無意識な態度が不信感につながる可能性を強く感じました。実習ではこうした自分の癖がどのように伝わるのかに気づき、適切な距離の取り方や姿勢を実践的に学びたいです。

お忙しい中、貴重なお話と見学のお時間を設けていただき、心よりお礼申し上げます。



神戸女学院大学 心理学部 心理学科 精神保健福祉士養成課程 ニュースレター

第5号

小阪病院にて見学実習を させていただきました



3回生の授業(ソーシャルワーク実習指導Ⅰ)において、今年度も小阪病院にて見学実習をさせていただきました。

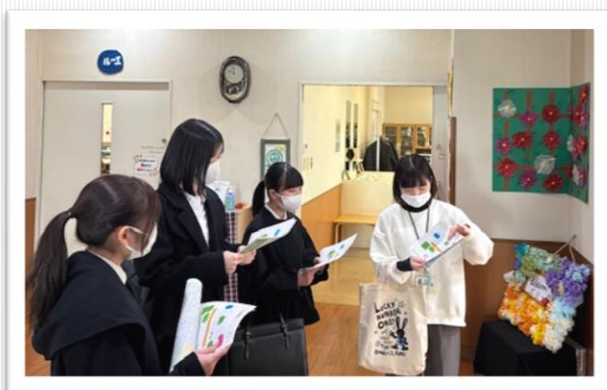
病院に加え、デイケアや生活訓練・就労定着支援など法人内の関連施設も見学させていただき、それぞれの施設の特徴や事業内容、精神保健福祉士の関わりなどについても詳しく教えていただきました。



参加した3回生の感想

・認知症病棟を見学させていただいた際、これまでの自分の認知症に対するイメージと、実際の現場との間に大きなギャップがあることに気づき、驚きました。挨拶をしても視線が合わなかったり、会話が成立しにくい様子を見て、どのように関わるのが適切なのか、そしてどのように患者様主体の支援を進めていくのかという疑問を持ちました。そのため病院実習では精神疾患だけでなく、認知症についても理解を深め、実際の関わりを通して学んでいきたいと考えています。

・デイケアセンターでは、通院中の方々が安心して過ごしながら、生活リズムや対人関係を整えていく場であることを知りました。「ポミエ」「コ・ラボ」「ルーエ」と利用目的に合わせて行われる支援は、利用者一人ひとりの状態に合わせて無理なく参加できる仕組みであり、利用者のペースを大切にしている点が印象に残りました。ここでの経験が、再び社会とつながる自信につながっていくのだと感じました。



・見学中、閉鎖病棟の患者さんが笑顔で手を振ってくださった場面はとても印象に残っています。一方で、ワーカーの方が患者さんの目の前で鍵をかけなければならない場面を見た際には、胸が少し締めつけられるような気持ちになりました。患者さんの安全を守るために必要な行為であると理解しつつも、「患者さんはどのような気持ちでこの場面を受け止めているのだろう」と考え、支援者としての役割と、利用者の気持ちに寄りそうことの難しさを実感しました。このときに抱いた違和感や迷いは、今後支援に関わる中でも大切にしていきたいと感じました。

・アプレンドでは、生活訓練から就労定着支援まで切れ目のない支援が行われており、就職することがゴールではなく、「働き続けること」を支えている点に大きな意義を感じました。また、グループホームや自立生活援助事業では、一人暮らしに向けて段階的に支援が行われており、退院後の不安に寄り添う体制が整えられていることに安心感を覚えました。



お忙しい中、貴重なお話と見学のお時間を設けていただき、心よりお礼申し上げます。

神戸女学院大学 心理学部 心理学科 精神保健福祉士養成課程 ニュースレター

第6号

ソーシャルワーク実習 実習報告会を開催しました



12月13日(土)、4回生 11名によるソーシャルワーク実習 実習報告会が行われました。報告会では、実習体験を振り返りそれぞれが学んだことや課題などについて発表がありました。一人ひとりが社会福祉の価値や視点で、実習体験を丁寧に感じ取り考察したことが伝わってくる発表でした。報告会後の交流会では、在校生がご参加くださったOGの方々に将来の進路や仕事のことを相談するなど盛んに交流が図られていました。

4回生の実習発表後は、
OGをゲスト講師としてお招きしました。

杉野 裕佳さん 7期生
(京都市西部障害者地域生活支援センター「らくさい」)

精神保健福祉士を目指されたきっかけ、ご所属先の法人の紹介や業務内容、在学生へのメッセージなどをお話いただきました。在校生は、長年精神保健福祉士として働いておられる先輩からのお話を伺うことで、精神保健福祉士のイメージがより鮮明になったようです。貴重なお話をありがとうございました。

参加した3回生の感想

・実習に行かれた先輩方のお話を聞いて、実習に行く前の事前準備や利用者の方と関わる上で意識しておいたらよいことなど、参考になりそうな話がたくさん聞けてよかった。

・実習報告会では、直接先輩に実習に行く上での不安を話せたり疑問を聞くことができたりして、実習に対するイメージが明確になったり不安が少なくなりました。

4回生への質疑応答

Q) 利用者さんとお話された際に、どのようなことを気をつけておられたか教えていただきたい。

A) 沈黙を大切にするように心がけた。沈黙が続いた時は、何を話そうかと焦ったことがあったが、沈黙も必要な時間であり待つことも大事だと感じた。

お忙しい中、ご参加くださいましたOGのみなさまに心よりお礼申し上げます。

ありがとう
ございました